

「学童疎開の日」つどいアンケート (2013.8.4)

◎疎開の日「記念日」は新しい発想ですね。今後も続けましょう。「継続は力なり」です。続けましょう。ホームページの充実を！！
小学校6年生に出前授業を！

◎皆さんから、それぞれ色々な体験を聞かせて頂きよかったです。孫たちには2度と学童疎開お体験させたくない。また、決して銃をとらせてはならない。日本が世界に誇れるのは60年間1度も国家の名の下に他国の人を殺していないことだ。そのためにも9条改憲を絶対許してはならない。私たちに今出来ることは戦争の時代を語り継ぐことだ。疎開協の灯りを消してはならない。

◎皆さまの体験談、大変興味をもって聞かせて頂きました。小生、まだまだ語りたいたい体験談が沢山あります。次回を楽しみにしております。原爆資料館、東京大空襲・戦災資料センターなど戦争を忘れないための施設がありますが、学童疎開も戦争の大きな出来事です。「学童疎開記念館」とまではいなくても、せめて「疎開協」だけは続けて頂きたいと思ひます。役員の皆さまよろしくお祈りします。

◎戦争体験者が高齢になり伝える人が少なくなりました。政治家の中にも戦争を知らない人が多くなりました。子、孫にも戦争のことをもっと話して聞かせなければと思ひました。最後に会長さんが話された「語り部」として、戦争を知らない人に継続して話してあげることを大切にしたいと思ひます。

◎孫たちには絶対体験をさせたくありません。思い出話で終わらせないで、人生の残りも少ないが、行動しなければならないと思う。

◎いつまでも語り継いで行くべきおととと考えています。私たちの体験したことが、いかに大切だったかと実感し、これを私自身のことのみを考えず、今後も子ども、孫に伝えたいと考えています。

◎いろいろとお話を有難うございました。8月4日の集会は、続けていくことを希望します。

◎第1回として経験談は貴重な資料とは思いますが、会としての目標を見定めないと思い出語りに終わってしまうのではないのでしょうか。政治的色彩を持つことは避けていただきたい。次世代の子どもたちに実情を話し、判断は次世代の子どもにまかせた方が良くと思う。史実をそのまま伝えることが大切だと思ひます。皇后陛下の御歌「次の世を背負うべき身ぞ…」が理解できるように。

◎皆、素晴らしいお話でした。

◎生々しい疎開体験を、次の世代に伝えるには、学校の教科書に詳しく記述してもらい、語り部活動も出来ればと思ひます。平和教育のご協力を是非！！図書館のお話し会も！語り部活動など、具体的な活動をお一人お一人の体験を、各区、各市に積極的な働きかけをしていければ、区議会、市議会に働いて頂ければと思ひます。皆さまのお話を伺って大変参考になりました。

◎今日は、疎開生活をなされても、戦後は両親など家族と再会された方が多く、まだお幸せかなと思ひました。沢山の、親を亡くした子どもたちの苦勞を聞きますと、学童疎開生活をさせたことは良かったのか、ちょっと疑問もあります。私たちは(福島県三春に疎開した)学童疎開の方たちと交流していますが、もっと沢山の話を聞こうと思ひます。原発や憲法やいろいろな問題に取り組んでおりますので、仲間に入れていただき、何か伺ったり一緒に行動したりすることは無理と思ひます。



東京新聞横浜版 2013年8月5日に掲載された「学童疎開の日」の様子を伝える記事

「かけはし78号」別冊 資料編

メディアの掲載された学童疎開 2013年・夏



朝日新聞・be evening「昭和史再訪」の中で取り上げられた学童疎開特集記事(2013年7月6日)。疎開協会員の長谷川直樹氏や北海道大学の逸見勝亮教授、愛川欽也氏、米倉齊加年氏等へのインタビュー記事が掲載されている。

読売 KoDoMo 新聞 8月15日号の記事

